

海老川沿い

市内中央からいくつもの川が合流して東京湾へと注ぐ海老川。この海老川にかかる橋の欄干には特徴的なレリーフが設置されているものも多く、往来する人の心を和ませてくれます。川の側にある太宰治の旧居跡と共に、川沿いを散歩してみましょう。

総距離 3km



日本の童話をイメージして作られ、桃太郎・金太郎・浦島太郎・ものぐさ太郎の像が立っている



空を飛ぶ鷹のレリーフが欄干の上に立っている。14橋の中で唯一の木製の橋



スポーツ健康都市のシンボル「汗一平」の像が立っている。付近には海老川ジョギングロードで練習を重ねた有森裕子選手の記念碑も



四季を表す女性の像が4体立っている。隣には船橋中央卸売市場がある

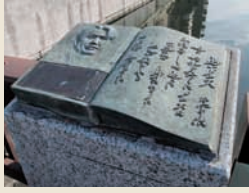
「さくら橋」の名称は市民公募で決まった。さくら橋周辺の川沿いには桜並木が続いている

桜の名所としても知られる海老川沿い。春には両岸に植えられた約500本の桜が川面を覆うように咲き誇る



海老川の由来

市内の金杉にある御滝山金蔵寺内の湧水を源流に、船橋の中心市街地を流れる海老川。この地を訪れた源頼朝にこの川で取れた海老を献上したという伝説が名称の由来ともいわれています。



太宰治の肖像と「走れメロス」の一節を刻んだレリーフがある。ここから太宰治の旧居跡までは徒歩2分ほど

太宰治は昭和10年(1935)7月から1年3ヶ月あまりを旧船橋町五日市本宿で過ごした



これより先、海老川は船橋港から東京湾に流れ込む。船橋橋から最寄の駅「大神宮下」までは徒歩5分ほど



ポランテニア精神をイメージして作られ、市のポランテニアキャラクター「さざんかさつちやん」の像が立っている

愛らしい親子カッパの像が欄干の端に立っている。海へのロマンをイメージして作られた



だざいおさむきめうきよあと
太宰治旧居跡

JR総武本線
船橋駅
新海老川橋
海老川人道橋

「手のひらを太陽に」の歌碑とブロンズ像、音符の高欄が特徴の栄橋。音楽をイメージして作られた



追い込み漁など昔なつかしい風景などのレリーフが飾られている



子供の楽隊の行進とばか面踊りの像が欄干に並ぶ。人の和を表現したレリーフも見られる

人をテーマに高欄の手すりには、海そして生物の姿をメルヘンタッチで彫像化している



欄干の中央、船の先端部の道路側には、船橋の地名の由来と故・泉重千代さんの手形のレリーフがある

